

平成27年8月6日

韓国 道徳科における指導法・評価の事例

国士舘大学 関根明伸

韓国 道徳科の教育目標

自分と、私たち・他の人、社会・国家・地球共同体、自然・超越的な存在との関係に関する正しい理解をもとに、人間の生に必要な道徳的規範と礼節を学ぶとともに、生の多様な領域で発生する道徳の問題に対する感性を育成し、道徳的思考力と判断力、道徳的情緒、実践意思および能力を通じて道徳的徳性を涵養し、これをもとに自律的で統合的な人格を形成する。

教育科学技術部『道徳科教育』p.5（筆者訳）



道徳科 目標の特徴

1. 自分との四つの価値関係性に対する理解
 - ①「自分」
 - ②「私たち・他の人」
 - ③「社会・国家・地球共同体」
 - ④「自然・超越的な存在」
2. 道徳的規範や礼節の学び→「知識」の学習
3. 「道徳の問題」に対峙
4. 認知的側面、情意的側面、行動的側面から学習

道徳科の内容体系（初等学校）

領域	内容		重要価値・徳目		3・4学年		5-6学年	
	全体志向	領域別						
道徳的主体としての私	尊重 責任 正義 配慮	自律 誠実 節制	ア 大切な私 イ 自分の事を自分で行う生	ア 誠実な生活 イ 反省する生	ア 感情の調節と表現 イ 自分の行動に対する責任感	ア 自負心と自己啓発 イ 節制する生活		
私たち・他の人との関係		孝行 礼節 協同	ア 和睦した家庭 イ 友人間の友情と礼節 ウ 感謝する生活	ア 隣人間の道理と礼節 イ インターネットマナー ウ 助け合いの生活	ア 情報社会での正しい生活 イ 年長者を敬う心と礼節	ア 配慮し奉仕する生 イ 対話と葛藤（争い）の解決		
社会・国家・地球共同体との関係		遵法・公益 愛国心 統一意志 人類愛	ア 公共の場での秩序と規則 イ 国に対する愛と矜持	ア 統一の必要性和統一努力 イ 多文化社会での正しい生*	ア 人権尊重と保護 イ 法と規則の順守 ウ 共同体意識と市民の役割	ア 公正な行動 イ 我々が追求する統一の姿 ウ 地球村時代の人類愛		
自然・超越的存在との関係		自然愛 生命尊重 平和	ア 生命の重要性*	ア 自然愛と環境保護*	ア 真の美	ア 愛と慈悲		

道徳科の内容体系（中学校）

領域	内容	重要価値・徳目		中学校1～3学年	
		全体志向	領域別		
道徳的主体としての私	我々・他人との関係	尊重 責任 正義 配慮	自律 誠実 節制	ア 道徳の意味	ア 人間存在の特性
				イ 生の目的と道徳	イ 自律と道徳
				ウ 道徳的省察	ウ 道徳的自我像
				エ 道徳的実践	エ 勉強と進路
社会・国家・地球共同体との関係	自然・超越的存在との関係	尊重 責任 正義 配慮	孝行 礼節 協同	ア 家庭生活と道徳	ア 他人尊重の態度
				イ 友人関係と道徳	イ 平和的解決と暴力予防
				ウ サイバー倫理と礼節	ウ 青少年文化と倫理
				エ 隣人に対する配慮と相互協同	
社会・国家・地球共同体との関係	自然・超越的存在との関係	尊重 責任 正義 配慮	遵法・公益 愛国心 統一意志 人類愛	ア 人間尊厳性と人権	ア 社会正義と道徳
				イ 文化の多様性と道徳*	イ 個人の道徳的生と国家の関係
				ウ 分断背景と統一の必要性	ウ 国家構成員としての正しい姿勢
				エ 正しい統一の姿	エ グローバル化時代の我々の課題*
社会・国家・地球共同体との関係	自然・超越的存在との関係	尊重 責任 正義 配慮	自然愛 生命尊重 平和	ア 環境に親しんだ生*	ア 心の平和と道徳的生
				イ 生の大切さと徳目	イ 理想的な人間と社会
				ウ 科学技術と道徳	
				エ 文化と道徳	

教育課程における「内容項目」

－「対話と争いの解決」（5～6年）－

（1）私たち・他の人との関係

（（ア）～（ウ）略）

（エ）対話と葛藤（争い）の解決

日常生活で発生する様々な葛藤の原因と対話の重要性を認識し、様々な争いに対して対話を通じて平和的に解決できる道徳的な力量と態度を育成する。日常生活の様々な争いの問題について、平和的に対話によって解決した場合とそうでない場合の長所・短所を分析するとともに、平和的な解決方法を具体的に提示する。

- ①争いの種類と解決することの意味、重要性
- ②対話を通じた平和的な争いの解決方法と過程および手順
- ③暴力のない学校、学級規則を作る

教育科学技術部『道徳科教育課程』P. 16（筆者訳）

「内容項目」における表記の特徴

- 1. **到達基準 (achievement standards) で表記**
 - ・ 「争いの原因と対話の重要性を理解する」 「長所・短所を分析」
→ **認知的側面**での到達基準
 - ・ 「平和的な解決法を具体的に提示する」
→ **行動的側面**での到達基準
- 2. **目標、内容、学習活動 (指導) の一致**

追求する理解、心情、行動・態度を**具体的な行動形態**で明示
「○○を理解し、○○することができるようにする」
- 3. **曖昧な表現が少ない**

「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、**謙虚な心**をもち、**広い心**で自分と異なる意見や立場を尊重すること」 (旧日本、5, 6年)
- 4. **認知的側面、情意的側面、行動的側面から**

韓国 道徳科の指導方法

～教科書の「葛藤（争い）を対話で解決する生」の单元～

■ 中单元① 「争いとその解決、正しく知る」

争いに関する認知的な学習

なぜ争うのか、争いにはどのような種類があるのか考えさせる

■ 中单元② 「争いを対話で解決しよう」

争いに関する情意的学習、探究活動

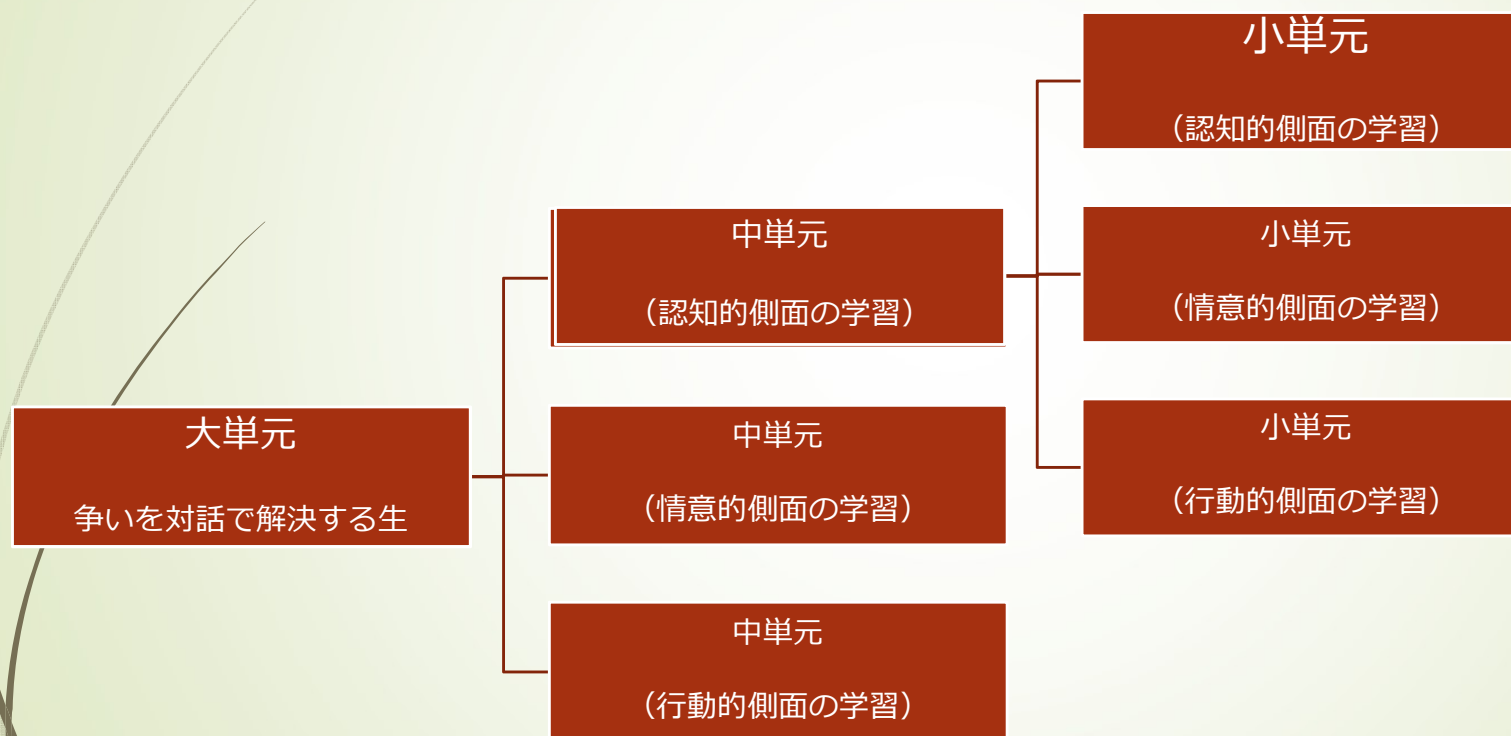
けんかの場面の絵を見せ、その原因と解決法を考えさせる


■ 中单元③ 「共に争いを解決しよう」

解決の方法を探る探究活動、実践意欲の喚起

解決法を探らせる

認知的、情意的、行動的な各側面より総合的指導





教師の裁量で多様な指導法の導入

説話

ディスカッション

モラルジレンマ学習

ロールプレイング

ICT活動

ボランティア活動

スキル学習

マニュアル学習

道徳科における評価方法

- ➡ ○ 2つの評価観
 - 「判定・分類としての評価観」
 - 「成長・改善としての評価観」 ➡ より重視
- ➡ ○ 学習で得られた現在の道徳性の発達程度を測定
- ➡ ○ 教師の学習指導の目標、内容、方法、過程、資料等を改善する過程と活動に連動する評価

評価の基本的方向性

1. 目標志向的な評価
2. 妥当性の確保
認知的・情意的・行動的側面からの総合的評価
3. 客観性と信頼性の確保 多様な評価方法の選択
道徳的な知識・理解
→穴埋め、選択肢テスト
道徳的心情・行動
→自己評価、相互評価、パフォーマンス評価など
4. 評価の結果は授業の目標、内容、方法の改善へ

道徳科の評価手順

1. 評価する徳目を設定する
正直、礼節、思いやり・・・
2. 成就基準（評価規準）を設定する
目標に対応して「内容＋行動」で評価規準を設定
3. 到達度測定のための評価基準（判断基準）の設定
例) **評価規準** 「節約する生活を実践する」
評価基準 → 「公共のものを大事に使える」
→ 「自分のものを大事に使える」
→ 「ものを大事に扱えない」



評価の場面と機会の設定

1. 多様な場面での評価

授業の時間、学校内での生活、学校行事、作業活動、学校外の家庭、地域社会での生活場面

2. 多様な機会での評価

特定時間の評価、随時の評価、継続的評価

パフォーマンス評価の事例

①争いの二つの側面について理解し、②民主的な対話を通じて争いを平和的に解決しようとしているかどうか。

教育科学技術部『初等学校 道徳5 教師用指導書』2012、179頁

例) パフォーマンス評価の内容および基準

点数	①葛藤の二側面について理解し、説明できる	点数	②葛藤を平和的に解決しようとする意思を持てる
5	建設的な葛藤と破壊的な葛藤の例をあげて説明することができる。	5	葛藤を民主的な対話を通じて平和的に解決しようとする意思を持っている。
3	建設的な葛藤と破壊的な葛藤の例をあげることができるが説明はできない。	3	対話を通じて葛藤を解決しようとするが、意思は弱い。
1	建設的な葛藤と破壊的な葛藤の例をあげることができない。	1	対話によって葛藤を解決しようとする意思がない。
評点	8～10大変よい	5～7普通	4～2努力を要する



評価方法と評価ツールの設定

1. 認知的側面の評価
主に筆記式（主観的、客観的）
2. 情意的側面の評価
主に自己評価、面接法
3. 行動的側面の評価
主に観察法

対象と内容に応じて柔軟に評価

自己評価ツール

区分	評価基準	点数	反省する点
葛藤の二つの側面について理解し、説明すること	1—2—3—4—5		
民主的な対話を通じて平和的に葛藤を解決しようとする意思が持てる	1—2—3—4—5		
採点基準	<p>A大変よい ...葛藤の二つの側面について例をあげながら説明し、民主的な対話を通じて葛藤を平和的に解決しようとする意思を持っている。</p> <p>Bよい ...葛藤の二つの側面の例をあげることはできるが、説明はできない。民主的な対話を通じて平和的に葛藤を解決しようとする意思は弱い。</p> <p>C努力を要する ...葛藤の二つの側面を説明することができず、民主的な対話を通じて平和的に葛藤を解決しようとする意思がない。</p>		

自己評価の例

道徳科評価紙（自己評価紙）

6年 組 番 名前（ ）

単元名	2. 責任ある生活	授業時	3/3	評価日	年 月 日
課題名	「責任ある生活」			評価者	印

活動課題

1. みなさんは、家庭、学校、地域共同体において、責任感を持った生活をしているでしょうか？自分の行動について当てはまると思うものに○をつけてみましょう。

区 分	行 動 尺度（悪い⇔良い）	点 数	・具体的にやってみ たこと ・反省点
あたたかい家庭	1 2 3 4 5		
楽しい学級	1 2 3 4 5		
住みやすい地域共同体	1 2 3 4 5		

2. 実践したあとに自分が思ったことや考えたことについて書いてみましょう。

（2013年 ソウル市立九老初等学校）

道徳科 評価基準案

6 学年 1 学期

評価時期	4 月 第 2 週	領域	道徳的主体としての私	課題	2. 責任を果たす	教科書	道徳 26-45 生活の手引き 22-39									
成就基準		・責任を果たそうとする態度を持ち常に生活の中で実践することができる。														
評価の観点		評価の種類		領域	対象	時期	記録	結果処理								
家庭、学級、地域共同体において、責任を果たす生活をしているか？	チェックリスト評価、観察評価	道徳的主体	社会・他人	国家・民族	個人	小集団	全体	導入	展開	まとめ	記述	チェック	録音	ことば	記録	通知
		○			○	○				○		○			○	
評価の方法				準備物			評価時の留意点									
○「家庭」、「学級」、「地域共同体」のために実践したことと、その結果について記録し、自分の考えを表した記述について評価する。				遂行評価紙 筆記具			・評価の結果は生活を反省するための資料として活用する。 ・児童自らが自己評価するようにし、自律性を育成する。									
成就基準	たいへんよい	常に家庭、学級、地域共同体において、責任ある生活を続けている。														
	よい	おおよそ家庭、学級、地域共同体において、責任ある生活を実践している														
	ふつう	時々家庭、学級、地域共同体において、責任ある生活を実践している。														
	努力を要する	家庭、学級、地域共同体で責任ある生活をしようとする意思がない。														
パフォーマンス評価の記録方法																
・評価基準に依拠し、4 段階で評価する																
<p>家庭と学校のために、責任ある生活をしているようにみられる。しかし、地域共同体のための仕事はとくにしていない。地域のために自発的に奉仕活動をする必要性があると思われる。など。</p>																

評価基準案の例

(2013 年 ソウル市立九老初等学校)

まとめ

- ➡ ○目標、内容、活動（指導）、評価の一致
- ➡ ○認知的、情意的、行動的側面からの指導と評価
- ➡ 評価規準を「内容＋行動」で設定
- ➡ 認知的側面⇒主に筆記式
- 情意的側面⇒主に自己評価、相互評価 etc...
- 行動的側面⇒パフォーマンス評価 etc...

主な参考文献

- ・教育科学技術部『初・中等教育学校教育課程総論』、2012年。
- ・教育科学技術部『道徳科教育課程』、2012年。
- ・教育科学技術部『初等学校 道徳5 教師用指導書』、2012年。
- ・押谷由夫・柳沼良太・貝塚茂樹・関根明伸・西野真由美・松本美奈
『道徳の時代がきた！』教育出版、2013年。
- ・押谷由夫・柳沼良太・新井浅浩・貝塚茂樹・関根明伸・西野真由美・松本
美奈『道徳の時代をつくる！』教育出版、2014年。